

《報告》

北九州市とその周辺におけるクロクシゲボタルの分布状況について

萱野浩良

〒804-0012 福岡県北九州市戸畑区中原東 3-13-45-406

はじめに

クロクシゲボタル *Cyphonocerus watarii* (図1) は、1991年に福岡県宗像市において採集された個体を基に新種として記載され、現在までに同県北九州市や山口県下関市、岩国市で生息が確認されている(川野, 2008)。

本稿では、北九州市とその近傍において現在までに生息を確認した5箇所について紹介する(表1および図2)。



図1 クロクシゲボタルの雄成虫
 田川郡香春町香春岳, 2008. 6. 7



図2 クロクシゲボタルの生息地概略図

表1 クロクシゲボタル生息地

生息地名	生息地の状況と主な樹木	生息確認日	個体数
北九州市小倉南区長野 (標高約150m)	スギ植林の林道沿い スギ, タブノキ, シロダモ, カラスザンショウ, アカメガシワ, クマノミズキ, アオキ, イヌビワ	2000年6月10日	4
		2006年6月10日	2
北九州市小倉南区井手浦 (標高約300m)	スギ植林 スギ, ヤブニッケイ, シロダモ, ムクノキ, アカメガシワ, アオキ, イヌビワ	2009年6月17日	15
北九州市小倉南区塔ヶ峰 (標高約580m)	石灰岩質の山頂部 ヤブニッケイ, シロダモ, ウラジロガシ, コマユミ, ネズミモチ, アオキ	2009年6月20日	2
北九州市小倉南区道原 (標高約450m)	常緑樹林内の登山道 タブノキ, ミズキ, クマノミズキ, ムクノキ, カゴノキ, イイギリ, ヤブニッケイ, ヤブツバキ, アオキ	2005年6月18日	2
		2006年6月18日	2
田川郡香春町香春岳 (標高約460m)	石灰岩質の山頂部 アラカシ, ウラジロガシ, ヤブニッケイ, シロダモ, コマユミ, シラキ, アオキ	2007年6月7日	20
		2007年6月9日	14
		2008年6月7日	8
		2008年6月14日	22

生息地の環境概要

北九州市小倉南区長野(図3): 貫山系の最も北側に位置する低山地にあり、長野城跡へ通じる林道沿いである。貫山(標高711.6m)の南西方向はカルスト台地として有名な平尾台である。

生息地周辺はスギを主とする針葉樹の植林であるが、林縁部には高木としてタブノキ、シロダモ、カラスザンショウ、アカメガシワ、低木としてアオキ、イヌビワなどが見られる。道端や林床にはイノコズチ、ドクダミ、シダ類が生育する。谷沿いには小規模の水流があり、比較的湿潤な環境である。

また、この地域の地質学的特徴として、花崗岩質の岩海や洞窟が分布する。

なお、この生息地では同属のムネクリイロボタル *C. ruficollis* との混生が報告されている(川野, 2008)。

北九州市小倉南区井手浦(図4): 平尾台の北西に位置する集落を起点とする舗装された林道沿いがあり、スギ植林の中である。この林道は長野の生息地にも通じており、植生も長野と大きな違いはない。林道の脇には小水路が設けられ、林内には花崗岩質の石垣や結晶質石灰岩の露頭が存在する。林床にはフユイチゴ、ヤブミョウガなどが生育し、スギの枯葉が堆積している。

この生息地の中でも、クロクシヒゲボタルは林道から分岐する未舗装の山道上で度々確認された。ここでは長野地区で見られるような岩海状の花崗岩帯が小規模ながら分布している。

また、クロクシヒゲボタルの確認位置から1m内外の範囲において、ムネクリイロボタルも同時に確認された。

北九州市小倉南区塔ヶ峰(図5): 井手浦の生息地の南方にそびえ立ち、西側から望む山容は特に急峻である(標高582m)。平尾台から連続する石灰岩地であり、日当たりの良い断崖絶壁にはイワシデ、イワツクバネウツギ、チョウジガマズミなど特有の植物が見られる。

クロクシヒゲボタルが確認された場所は、ヤブニッケイ、コマユミ、ネズミモチ、アオキなどからなる樹林内で、林床にはこれらの幼木やフタリシズカ、ヤブレガサなどが生育する。また、石灰岩地であるため、地表面に水流は見られない。

なお、ここでもムネクリイロボタルと同所的に生息することが確認された。

北九州市小倉南区道原(図6): 市内では最高峰の福智山(標高900.6m)の東側中腹に位置し、鱒淵貯水池から山頂への登山道沿いにある。この登山道は標高約350mで南寄りに九州自然歩道、北寄りにホツテ谷新道に分岐する。

生息地はこのホツテ谷新道にあり、その北側はやや離れて谷があり小渓流となる。タブノキ、クマノミズキ、ムクノキ、カゴノキなどの他、上方へ少し登ると胸高直径50cmを越すイイギリの大木が見られる。低木としてイヌガヤ、シロダモの若木やアオキが見られ、ヤブツバキやネズミモチがその上層を覆うように茂る。露岩や転石が散在する林床にはアオキ、シロダモの幼木やフユイチゴ、タイリンアオイ、シダ類が見られるが多くはない。

田川郡香春町香春岳(図7): 北九州市の南側に隣接する香春町のほぼ中央にある石灰岩質の山であり、平尾台とは小倉-田川構造線によって分断される。かつては3つの山頂から成り立っていたが、最も南側の一ノ岳は石灰の採掘により、現在は中腹まで削り取られている。

クロクシヒゲボタルが生息するのは二ノ岳(標高468.2m)のほぼ山頂部であり、アラカシ、ウラジ

北九州市とその周辺におけるクロクシヒゲボタルの分布状況について

ロガシ、ヤブニッケイ、コマユミなどの樹木、林床にアオキ、シロダモの幼木、ヤマフジ、ヤブラン、シダ類が見られる。また、露岩部には、イワシデ、イワツクバネウツギ、シロバナハンショウヅルなどの石灰岩地特有の植物が優占する。地表面に定常的な水流はないが、樹林内は乾燥はしていない。

クロクシヒゲボタルは山頂部に至る登山道でも少数であるが見つめることができた。ムネクリイロボタルも生息しているが、二ノ岳山頂部において現在までの調査では、稀にしか確認できなかった。

なお、この山域に古くからニホンザルが生息していることは、自然環境の豊かさを反映していると言える。



図 3-7 クロクシヒゲボタルの生息地

図 3 北九州市小倉南区長野； 図 4 北九州市小倉南区井手浦； 図 5 北九州市小倉南区塔ヶ峰； 図 6 北九州市小倉南区道原； 図 7 田川郡香春町香春岳

確認状況について

2007年6月の香春岳二ノ岳における観察より、クロクシヒゲボタルは樹木や草本の葉上で確認され

ることが多かったが、特に、茎丈 20cm 程度まで生長した幼木やつる植物、草本類を好んで選択しているように思われた。これらの葉の表面で、頭部を風上に突き出す体勢で触角を動かしながら探雌目的と考えられる行動をとり、時には葉先まで移動して飛翔することもあった。

なお、*Cyphonocerus* 属の触角の特徴から、確認した個体は全て雄であると判断された。

おわりに

クロクシヒゲボタル幼虫の野外における摂食行動については明らかではないが、陸産貝類の重要な生息地でもある石灰岩地において成虫が確認されることは、幼虫期の餌との関わりがあると推測され興味深い。

現在までに確認した生息地はまだ数少なく、低山帯に広く見られるムネクリイロボタルと比較すると分布は局所的であると考えられるが、植生や地質との関係も含めて今後の調査により明らかにしていきたい。

引用文献

- 板当沢ホタル調査団 (2006) 「日本産ホタル 10 種の生態研究」: 66-70, 板当沢ホタル調査団, 東京.
- 川野敬介 (2006) クロクシヒゲボタルの生息環境および近縁種との形態的差異. 全国ホタル研究会誌, (39): 51-55.
- (2008) 山口県におけるホタル類とその分布. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (1): 1-23.
- (2008) クロクシヒゲボタルの探雌行動に関する若干の知見. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (1): 63-68.
- 熊谷信孝 (2002) 「貫・福智山地の自然と植物」: 198-221, 海鳥社, 福岡.